現代アラブ世界における代表制と政治参加

――ヨルダン王国を通して――

平成 25 年度入学
派遣先国：ヨルダン王国
渡邊　駿

キーワード：ヨルダン、語学研修、アラビア語、現代政治、民主化

対象とする問題の概要（～400 字）

現代アラブ世界は代表制が民主的な機能を果たしていない中、街頭デモなどの直接的な大衆の意思表明といった形で人々の直接的な政治参加が拡大している。2011 年に各国を揺るがしたアラブの春はこうした状況を如実に示した現象である。人々の直接的な意思表明を通して政権が交代した各国では、政変から 2 年が経った今、新たに設立された政権に対する人々の不満が高まっているように見える。政治に対して人々の意思を表明する機会が増大した一方で、その意思を反映するシステムは十分に構築されていないと考えられる。では、いかなるシステムが必要とされるのだろうか。この 2 年間の経験が示すように、西欧世界がラテンアメリカや東欧諸国に対して行ってきた民主化プロセスをそのままアラブ世界に移植することは難しい。その答えを探るためには現代アラブ世界固有の代表制と政治参加に対する歴史的文脈、今日的認識を理解することが必要であると考える。

研究目的（～400 字）

近年英語によるアラブ世界を対象とした研究は増加し、またアラビア語文献の英語への翻訳も進んできている。とはいえ、1000 年以上にわたって培われてきたアラブ世界の伝統を考えればやはり、アラビア語の能力はアラブ世界固有の論理や歴史的文脈を理解するためには不可欠の要素である。ヨルダン国内の語学学校での学習、またヨルダンでの生活を通してアラビア語能力を向上させることが第一の目的である。また、アラビア語文献の収集も目的の一つである。もちろん日本国内にもアラビア語文献は存在しているが、その数量は研究上十分であるとは到底言えない。特に現代の政治を研究対象とする場合，現地の最新の情報にアクセスできるということは大きなメリットである。第三に、現地の研究者との意見・情報交換である。こちらも現地の最新の情報を得て、彼らの認識の仕方を学ぶことを可能とするものである。

フィールドワークから得られた知見について（～800 字）

フィールドワークの大部分は語学学校でのアラビア語学習に充てられた。アラビア語はアラブ世界・イスラーム世界で幅広く使われる文語であるフスハーと各地域で用いられるアンミーヤの 2 種類に分類できるところ、報告者は文語であるフスハーを学習した。学習では基本的な文法知識の確認、語彙力の増強を主眼とし、学校で使用する教科書のみならず現地の新聞を活用した。また現地の人々との会話もアラビア語能力の向上には大いに役立った。道端でのおしゃべりがアラブ世界では広く見られ(図 1 参照)、彼らとの会話を通して語学力を高められたことはもちろん、現地の人々の思想や言論を垣間見るこ

とができ、非常に有意義であったと感じている。

同時にアラビア語の文献収集も行った。報告者が滞在したアンマン市内では、ダウンタウンとそれに隣接するアブダリ地区に書店が集積しており、両地区で書店巡りに時間を費やした。店主に「エジプトの現代政治に関する本はありますか？」と聞くと、一つ二つ手渡してきた、と思ったらどんどんどんどん店の色々なところから本を出してきてくれる。それだけでなく近隣の書店に電話をかけてリクエストの本を取り寄せてくれる。日本の書店と比べてシステム管理の程度は低いのかもしれないが、店主の記憶力の高さと面倒見の良さに感銘を受けた。結果としてエジプトの現代政治を中心に計 45 点の書籍を購入することができた。

ヨルダン大学戦略研究センター（図 2 参照）の Dr. Walid（図 3 参照）が今回のプログラムのカウンターパートを務めて下さった上、快く意見交換にも応じて下さった。この機会を通してヨルダン国内の政治状況はもちろんのこと、エジプトをはじめ中東地域全体に関する知見を得ることができた。まだ公表されたまとまった研究は少ないものの、シリアからの難民への対応がヨルダン国内政治の一大イシューとなっているという点が印象的であった。

今後の展開・反省点（～400 字）

報告者が渡航を行った 2013 年 7 月~9 月という期間はエジプトでの政権崩壊、シリア内戦とそれに対する米軍の軍事介入の是非を巡る議論といった政治上重大な事件が立て続けに起こった時期であった。幸いヨルダン国内は非常な良好な治安が維持されておりトラブルに巻き込まれることなく過ごすことができたが、シリアからの難民流入がヨルダンの政治的争点として浮かび上がってくるなど周辺国を巡る動向は市民の中で一大関心事となっていた。こうした状況を目の当たりにして、中東地域は国際関係からの影響を強く受ける地域であるということを痛感した。アンマンで出会ったあるパレスチナ市民の一言が忘れられない。曰く、「中東の現代政治の根っこにはパレスチナ問題があるんだよ」と。国内事情にきちんと目を向けることも重要ではあるが、それと同時に国際関係がこの地域を大きく揺るがしているものであるということも認識しておかねばならないのである。

【図１　道端で会話に花を咲かせる人々：アンマン市内】

【図 2　ヨルダン大学戦略研究センター：アンマン市内】

【図 3　ヨルダン大学戦略研究センターの Dr. Walid と報告者：アンマン市内】